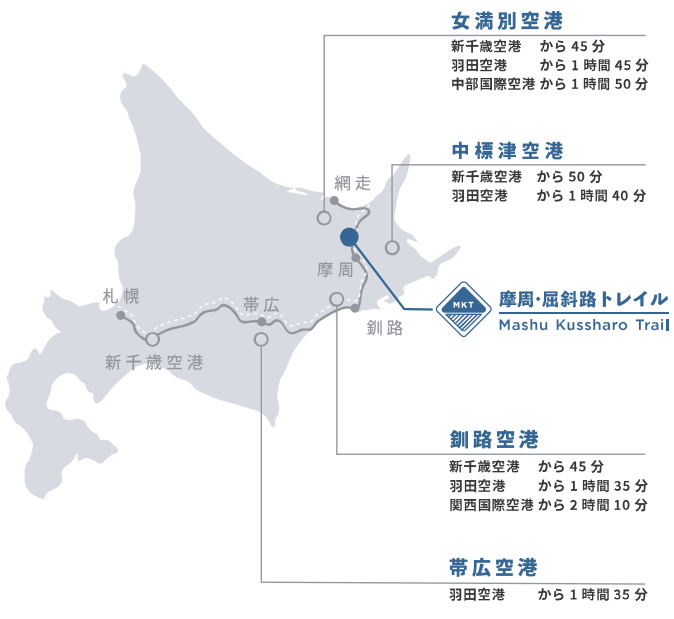


MKT 摩周・屈斜路トレイル

Mashu Kussharo Trail

火山と森と湖の壮大なカルデラをたどる道
 日本一の透明度をもつ摩周湖や、硫黄の噴煙が激しく立ち昇るアトサヌプリ（硫黄山）。歴史ある川湯温泉街をはじめ、屈斜路湖周辺のいたるところで湧き出す良質な温泉。日本最大のカルデラ湖である屈斜路湖の周りの森や生活道を歩く。そして、古くからここで暮らしてきたアイヌの人々のコタン（集落）。北海道のなかでも独自の自然や文化を育んできた阿寒摩周国立公園の2つのカルデラ、摩周と屈斜路の大地を歩く全長62kmのトレイルです。



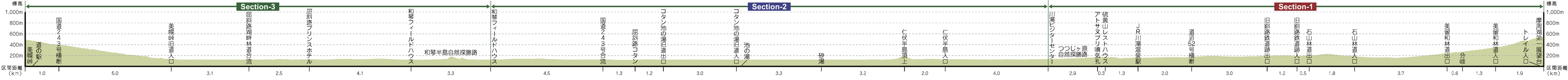
- ### MKT ハイキングの8つのルール
1. トレイルのルート歩く
 2. 動植物を大切にす
 3. 他人に配慮する
 4. ゴミは全て持ち帰る
 5. トイレは所定の場所を利用する
 6. 下調べをして、計画通りに歩く
 7. ヒグマの情報を収集して、十分に備える
 8. 野営や焚火は指定された場所で行う

交通情報
 タクシー：摩周ハイヤー 015-482-3939
 バス：阿寒バス 015-486-7716

MKT に関するお問い合わせ
 NPO 法人てしかがトレイルクラブ
 mashu.kussharo.trail@gmail.com

凡例

- 摩周・屈斜路トレイル
- Section1(火山の道)
- Section2(湖の道1)
- Section3(湖の道2)
- 国有林林道
- 市・町・村界
- ビジターセンター
- トイレ
- キャンプ場
- 駐車場
- 宿泊施設
- 温泉・足湯



<p>美幌峠旧道</p> <p>現在の国道ができる以前に使われていた旧道。かつて網走や美幌のアイヌの人々が屈斜路方面の温泉へ通った道はこの付近だったのだろうか？古の風景を想像しながら、屈斜路湖を一望する美幌峠まで一気に登る。 (写真：旧道から見る屈斜路湖)</p>	<p>和琴半島</p> <p>かつて火山島だった和琴半島は今なお地熱が高く、その先端にはオヤコツ地獄という噴気孔が煙を上げている。半島を一周する散策路では、春から秋にかけて小さな花々が咲き、目を楽しませてくれる。 (写真：和琴半島)</p>	<p>Section 3 湖の道2</p> <p>屈斜路湖に突き出た和琴半島を一周した後に農業地帯を抜けて屈斜路カルデラを一望する標高525mの美幌峠まで一気に登るコース。地域の特産であるジャガイモ、ピート、大豆の収穫時期には広大な畑をトラクターが行き交い、北海道らしい風景が広がる。後半はカツラやミズナラなどの巨木が美しい豊かな森林地帯となり、野生動物に遭遇する可能性も。人間の営みと自然の力を感じる19kmの道のり。</p>	<p>屈斜路コタン</p> <p>屈斜路アイヌの歴史と文化を知りたい人はまずはアイヌ民族資料館(4月20日～11月30日開館)へ。資料館前の芝生広場にはアイヌの祭壇などの野外展示や、屈斜路湖に面した絶景の露天風呂もある。 (写真：アイヌ民族資料館)</p>	<p>コタン池の湯旧道</p> <p>かつてアイヌの人々は、屈斜路コタンからこの旧道を歩いて池の湯へ通っていた。入浴のためだけでなく、布を織るための糸の原料となる木の皮を浸して柔らかくするために温泉を利用していた。 (写真：池の湯)</p>	<p>仁伏半島</p> <p>ハリギリ、オヒョウ、ホウノキ、カツラなどの広葉樹と、北海道を代表する針葉樹トマツの森は、多くの野鳥や野生動物も憩う場所。運が良ければクマガラのドラミングが聞こえるかもしれない。 (写真：仁伏半島自然散策路)</p>	<p>Section 2 湖の道1</p> <p>屈斜路カルデラに残る原生的な森の中の散策路や、かつてアイヌの人々が使っていた生活道、屈斜路湖畔に湧き出るユニークな足湯や野湯を巡り、カルデラの自然とアイヌ民族の文化に触れるコース。湖畔の砂を掘ると温泉が湧き出す砂湯は、夏はキャンパー、晩秋から春にかけてはシベリアから渡ってきたオオハクチョウで賑わう。屈斜路湖を眺めながら、その大きな恵みを感じる22.5kmの道のり。</p>	<p>川湯温泉街</p> <p>アトサヌプリを源とする強酸性の良質な温泉は、1日の疲れを癒してくれること間違いなし。日帰り入浴も可能な宿泊施設のほか、足湯、地場産食材を楽しめる食事処や国立公園のビジターセンターがある。 (写真：川湯温泉足湯)</p>	<p>アトサヌプリ(硫黄山)</p> <p>1,500以上の噴気孔から煙をあげる活火山。山肌を覆う黄色い硫黄の結晶に圧倒されるだろう。酸性の土壌が広がる山麓では、通常は高山帯に生育するハイマツ、ガンコウラン、イソツツジが見られる。 (写真：つつじヶ原自然探勝路)</p>	<p>旧釧路鉄道跡</p> <p>釧路地方の発展の礎ともなったアトサヌプリの硫黄採掘。1887年から10年間、硫黄を運ぶSLが走っていた跡地の一部を散策路として整備。線路はもうないが、当時を偲ばせる盛り土が残っている。 (写真：旧釧路鉄道跡)</p>	<p>摩周湖第一展望台</p> <p>MKTのスタート地点は、人が立ち入ることができない神秘的な摩周湖を眼下に望む展望台。湖面の色は「摩周ブルー」と呼ばれ、刻々と変化する。湖を見た後はフォトスポットで記念撮影をしていざ出発。 (写真：摩周湖カムイテラス)</p>	<p>Section 1 火山の道</p> <p>標高546mの摩周湖第一展望台から美留和地区へ摩周カルデラの外輪山を一気に下り、かつてアトサヌプリ(硫黄山)から硫黄を運んだ鉄道跡の森を抜け、活火山の雄姿を眺めながら歩くコース。JR川湯温泉駅前では地元で人気のカフェや雑貨店に立ち寄ることも。大迫力のアトサヌプリ噴気孔を見た後は、川湯温泉街へと続くつつじヶ原自然探勝路を歩く。地球の息吹を感じる20.5kmの道のり。</p>
--	--	---	--	--	--	---	---	---	---	---	---

※美留和林地帯は施業のため大型車両が通行することがありますので、十分注意して通行してください。場合によっては、閉鎖されることもありますので、必ず事前にホームページの「ニュース」をご確認ください。